

2011/09/14

情報メディア教育研究センターシンポジウム開会の挨拶

オープンソースソフトウェアによる情報基盤構築にむけた取り組みについて

法政大学情報メディア教育研究センター

所長 八名 和夫

本日はご多忙の中、法政大学情報メディア教育研究センターシンポジウムにお集り頂きありがとうございます。主催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。本学は本年4月よりオープンソースソフトウェア Sakai を全学の教育支援システムとして導入し運用をスタート致しました。法政大学は名古屋大学、関西大学と共に Sakai プロジェクトに開発者として貢献しております。現在この3校が相前後して Sakai システムの全学展開をスタートさせたところでございます。

ここにお集りの皆様は教育支援システムを教育に活用されておられるか運営にかかわっておられる大学関係者の方とオープンソースを核とする教育ビジネス展開を考えられている企業の方であろうかと思えます。いずれの方にも Sakai は大きな可能性を秘めているということをこのカンファレンスを通じて感じて頂ければと考えています。

私ども法政大学ではオープンリサーチセンター整備事業のプロジェクトとしてインターネットを活用した国際遠隔講義のプラットフォーム構築と実践を2002年から進めて参りました。サンフランシスコ近郊に研究所を設け、おもにサンフランシスコベイエリアの大学と提携して遠隔で単位互換のリアルタイム講義を行ってきております。その一環として授業支援のために Sakai を使い始めたわけでございます。利用する過程で Sakai は非常に安定したシステムであり実用に耐えるということが実感されました。

またJavaをベースにしたオープンソースシステムで機能拡張も容易に行えることも特色の一つです。たとえば私どもは独自に日本語化、中国語化、ベトナム語化を進めてまいりました。さらに日本の教育現場が必要とする機能追加ということで磁気カードあるいはICカード化された学生証による自動出席管理システムと Sakai をリンクさせるシステムの構築、クリッカーによる授業支援システム開発などを進めています。Sakai の日本語化を行い、日本語を使えるようにするというを超えて日本ならではの教育ニーズを満たすシステムに成長させてゆくということが可能であります。

日本の大学間で共通のニーズを分析総合して相互にメリットのある機能拡張を行うプロジェクトに発展させられればと考える次第です。すこし横道にそれますが、オープンソースとしてソースが公開されていることは情報系の学部を持つ大学にとっては優れた教材ともなります。ソフトウェア工学の教材としての利用が可能であることも Sakai 導入のメリットと考えることができます。

さて Sakai の最も重要な特徴として数万人規模のスケラブルな運用が可能であるということをお上げることができます。このことは米国の大規模な大学が、次々と商用システムに代えて全学教育支援システムとして導入していることから実証されています。

大学全体の教育支援システムとして Sakai を導入する場合トータルコストの問題がございます。オープンソースでソフトがフリーなのは良いが管理をどうするのか？メンテナンスを考えるとかえってコストは高くつくのではないか。という疑問が当然出て参ります。この点についてはオープンソースの Linux に対して、サポート付きのディストリビューションをビジネスモデルとするという形がございますが、このような形のサービスの提供を企業の方にして頂くということが考えられます。すでに r-smart 社が米国でそのようなサービスを行い大きな成果を収めています。また、法政大学では兼松エレクトロニクス様、関西大学ではNSソリューション様にご協力頂いております。さらにこのシンポジウムに御集りの企業の方々のご協力を得て日本の大学が商用システムと変わらないユーザビリティをもって Sakai を導入できるようにできればと考えております。Linux に対する Redhat のような企業が出現することを期待したいところでございます。

さて、オープンソースシステムによる授業支援システム構築にむけた取り組みに対する私どもの思いを述べさせて頂きました。本シンポジウムがオープンソースシステムを基盤とした授業支援システム、さらに授業支援システムにとどまらず情報基盤構築に向けた取り組みの可能性について考えて頂くきっかけになれば幸いです。

本日は本シンポジウム参加のために貴重なお時間を割いて御集り頂きありがとうございました。